

このまちの100年

「高松」

安土桃山時代、高松城が築かれ城下町が形成されました。明治期に香川県が置かれると県庁所在地として行政の中心地に。中国・四国地方に鉄道網が発達すると、岡山と香川を結ぶ宇高連絡船が就航、四国の玄関口として発展しました。



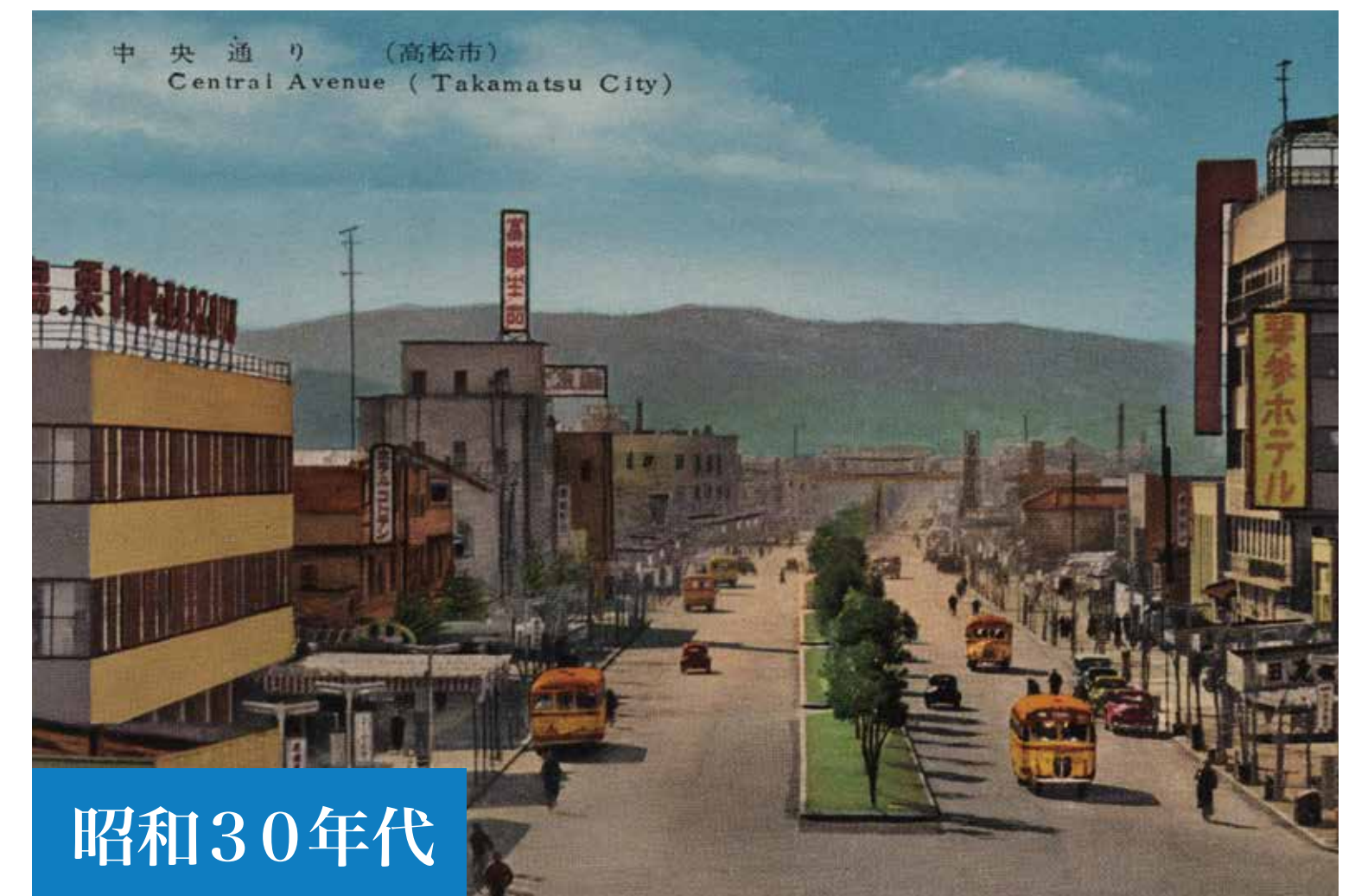
昭和10年頃

左手に高松三越が見える丸亀町通り。奥はアーケード商店街になっている



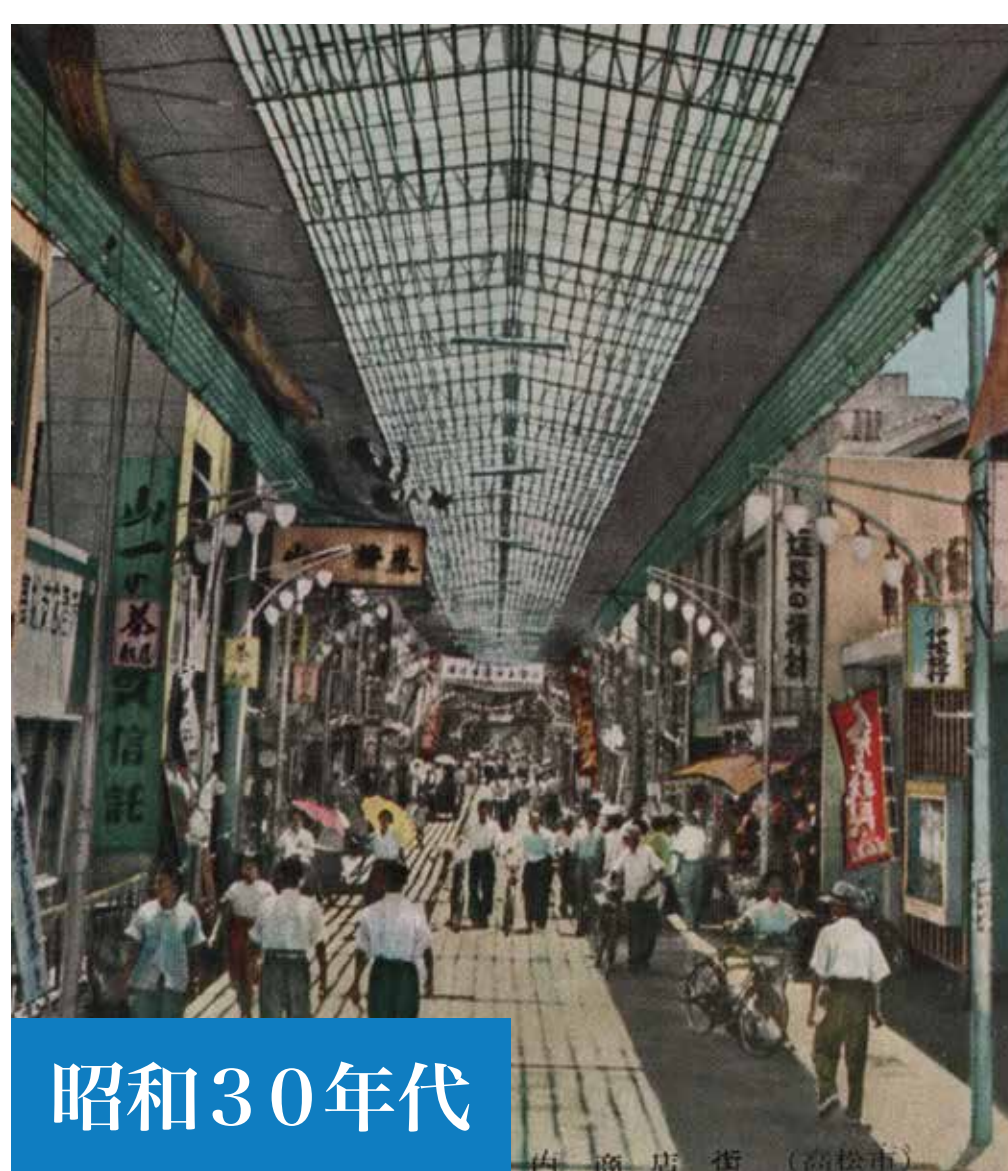
昭和10年頃

昭和59年まで使用されていた二代目高松駅。誕生したのは明治43年



昭和30年代

中央分離帯の緑が美しい街のメインストリート、高松中央通り



昭和30年代

昭和30年代のアーケードの様子。現在、中心部の8つの商店街は総称して高松中央商店街と呼ばれる



昭和30年代

昭和30年代の丸亀町通り。大売出しの文字が見える



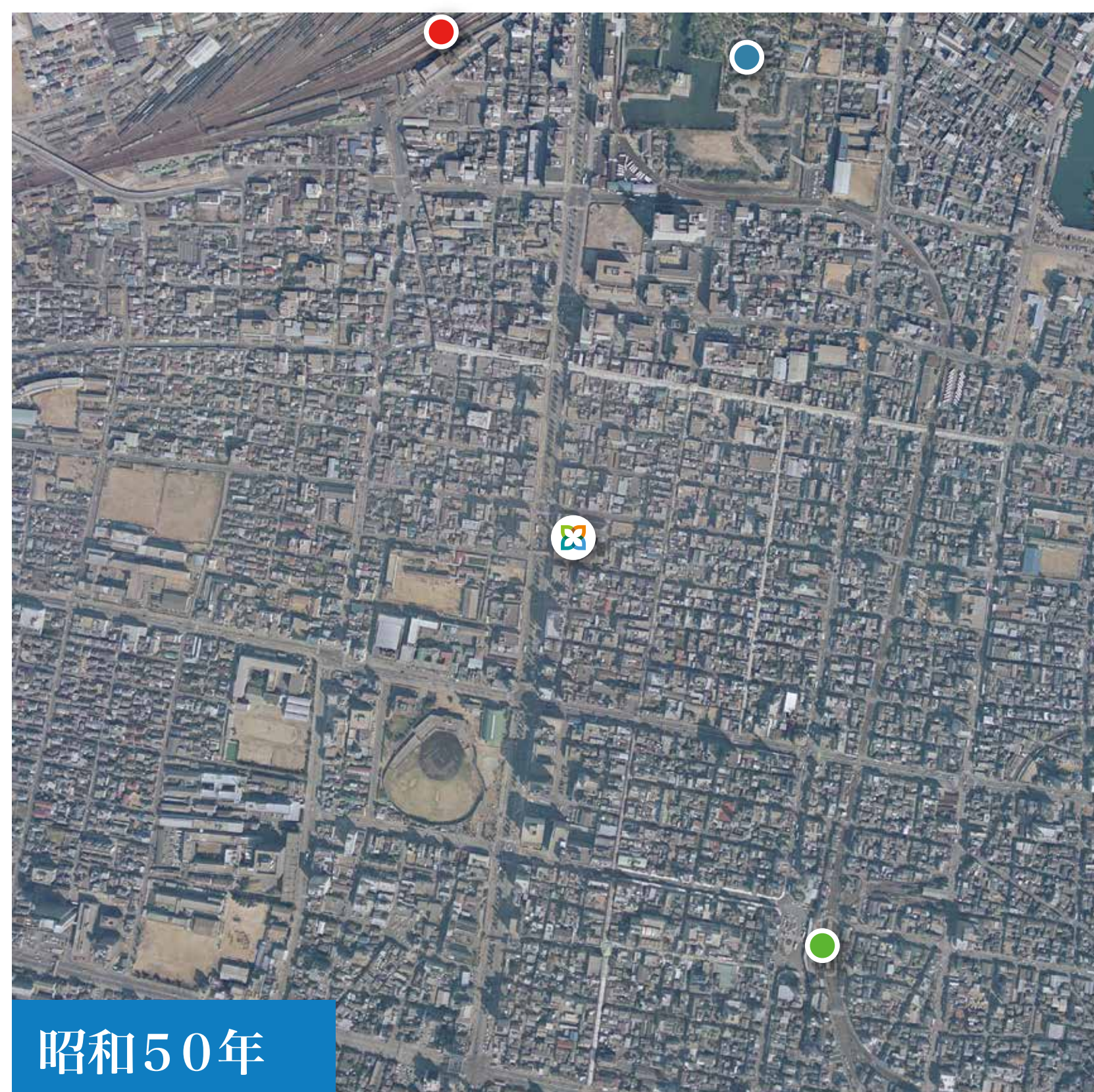
昭和30年代

国鉄(現在のJR)の宇高連絡船で本州と結ばれていた高松港の棧橋前。左右に多数のバスが駐車している

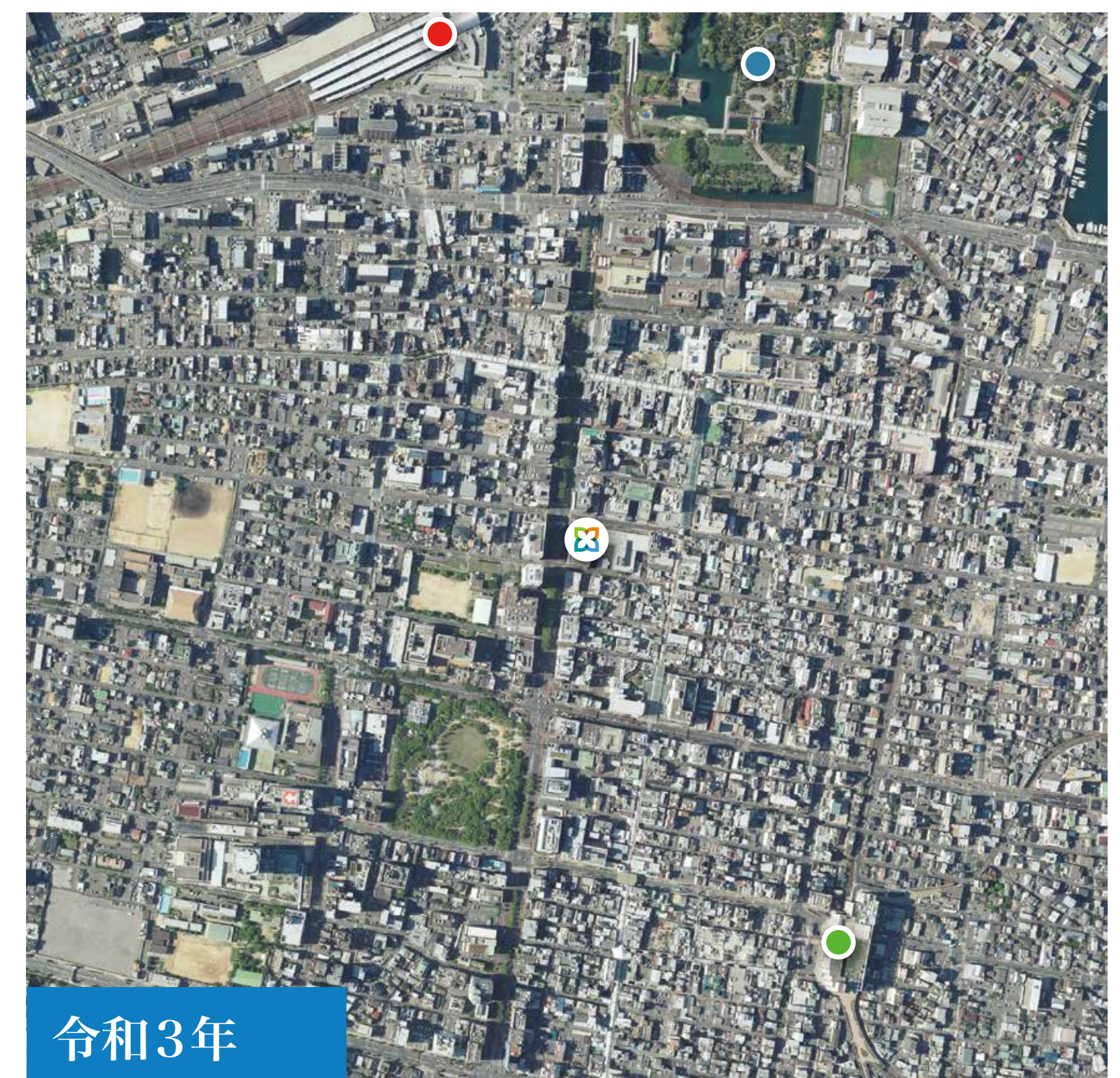
上空からみた高松エリア



昭和20年



昭和50年



令和3年

● : 現在地
● : 披雲閣 ● : 琴電高松駅/瓦町駅 ● : 高松駅

出典：国土地理院「地図・空中写真閲覧サービス」(一部加工)

編集：株式会社コロモチ